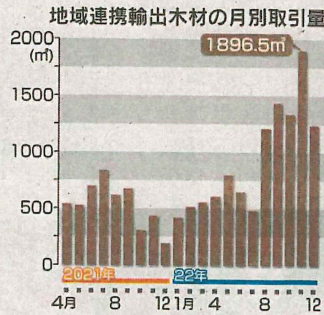


# 地域連携の木材輸出好調

## 取引量、目標大幅に上回って推移

【中津・豊前・上毛】大分県北部と福岡県東部の京築地域が連携して取り組む木材の輸出が好調だ。ウッドショックや新型コロナウイルスの影響を受けつつも、取引量は目標を大幅に上回って推移している。中国の旺盛な需要に支えられてきたるるるるるるるるるるが、出口となる中津港には課題も見える。



豊前市  
上毛町  
中津市

スギやヒノキの原木丸太が高く積まれた中津市田尻崎の中津港に毎月、2500トン積みみのパルク船が寄港する。丸太は忙しく動き回るフォークリフトとクレーンで次々と船に吸い込まれていく。

た「大分北部・福岡京築地域連携木材輸出拡大協議会」の月別取引量によると、過去2年で出荷量は着実に増えた。

21年夏のウッドショックに伴う中国の混乱、ロシアのウクライナ侵攻の影響は避けられなかったものの、21年度は約6300立方メートル、本年度は約1万立方メートル(昨年12月時点)を輸出した。

協議会を構成する4市場で最も出荷量が多い中津木材相互市場(中津市宮元)の若松定生社長は「22年度の目標7200立方メートルを既に超えた。目標を越えて量を集めることで有利な価格交渉ができています」と。福岡県の豊前市や上毛町など、豊前市の宮元隆弘社長も「流通が滞れば価格の下落に直結する。中国という安定した出荷先を確保することには山主や伐採・育林の事業者から信頼を得られるメリットを強調した。木材流通を担う瀬崎林業(本社・大分市)の伊与田秀一北九州出張所長は「直

## 出口の中津港、過密状態課題



船に次々と積み込まれる中国・上海向けの原木丸太。昨年12月24日、中津市田尻崎の中津港

近12月にやや落ち込んでいますが、中国の感染拡大による一時的なもの。ゼロコロナ政策も緩和され、需要は再び回復する」とみる。

ただ、中津港は近年、ペレットやヤシ殻といった木質バイオマス燃料の輸入港としても利用が活発化。協議会関係者は「港は既に過密状態。輸取出引量を大幅に増やすのは難しい」と指摘する。整備中の中津日田道路の完成もにらみ、中津港の利用促進に向けた改善策を要望する声は強い。

伸びている県境エリアの木材輸出について、協議会事務局の大分県北部振興局農山漁村振興部は「国産材の価格安定に貢献するだけでなく、山国川周辺の林業活性化は災害に強い山づくりにもつながる」と今後の展開に期待している。(安東公綱)